

## (2) リスク・レジリエンス研究会

### IV-1 リスク・レジリエンス研究会の概要

市原 あかね

今年度開始したリスク・レジリエンス研究会発足の経緯を簡単に紹介する。

筆者は、2016年度、地域創造学類内の「レジリエンス思考研究グループ」を企画し、地域のリスク・レジリエンスについて知見を深めるべく、3回の研究会・講演会を開催した。これは、金沢大学研究域教員配置計画（「主要研究課題推進プラン」）の「人的資本・社会関係資本の醸成に関する教育」（地域創造学類を対象とする研究グループ）に対し、法人が研究費をつけたことによっている。その第1回研究会では「地域のレジリエンスとは何か」について、枝廣淳子氏（東京都市大学）から入門的な説明を受けた。第2回は、中村仁氏（芝浦工業大学）を招いて、アメリカの著名な都市思想家、ジェイン・ジェイコブスの『アメリカ大都市の死と生』を題材に、ジェイコブスが複雑系としての都市をいかに捉えていたか講義を受け、都市の創造性とレジリエンスの関わりについて議論した。

第3回は「レジリエンス思考を学ぶ」をテーマとする講演会を開催し、Elmqvist, Thomas氏（ストックホルム・レジリエンス・センター）による「都市のレジリエンスと持続可能性：よくある誤解と混乱」と題する講演と、大野智彦氏（金沢大学）の流域政策にかかわる報告、Mammadova, Aida氏（金沢大学国際機構）の環境教育実践報告を受け、討論を行った。この会には、金沢大学能登学舎スタッフ、国連大学いしかわ・かなざわオペレーティングユニットのメンバーなどの参加があった。

これら3回の研究会を通じて、地域社会のリスクとレジリエンスを検討するに際しての、入門的理解、都市のダイナミズムを踏まえた理解、そして、環境に関わる理解を共有することができた。また、研究会開催を通じて、国内の研究動向を整理するとともに、国内国際の人脈を得ることができた。そこで本年度はじめに2017年度研究会参加者等に呼びかけ、農村だけでなく都市をも対象に、生物文化多様性をレジリエンス、転換の観点から分析するためのリスク・レジリエンス研究会を発足し、集団的な研究活動を開始することにした。

#### 【活動目的・研究テーマ】

本研究会は、今日の社会の基本課題がエコロジカルなシステム転換であることを前提としている。この課題に応えるべく、レジリエンス論(resilience thinking)を発展させ、人間存在の深い理解に基づいた、都市と農山村、それぞれと両者の総体の、エコロジカルな発展・変容のモデルと政策論を構築することを目的としている。また、その目的を追求するために、人間観、社会観を磨き、社会-生態システム分析の人文社会科学的豊富化と、社会-生態システムのメカニズムとダイナミズムを分析総合するものである。また、学際的批判的に研究を展開するべく、様々な分野の研究者の参加を求めるものである。

そこで、研究会は、四つの研究グループを組織し、理論・理念・政策・実態分析の循環的共同的検討過程を展開し、学際統合を追求することを予定している。また、国内外の既存研究組織・研究者とのネットワークを構築し、当面、主として次の三つの研究分野に取り組む。

- ① 理論レベルでの研究：社会-生態システム論について、批判的实在論やルーマン社会システム論等との比較研究を行う。また、オストロム制度論等を参照し、都市・農山村を対象とする生物文化多様性の「中範囲の理論」を、社会文化多様性と生物多様性の独立性と相互作用に踏み込んで発展させる。
- ② 生物文化多様性の事例分析に関わる研究：既存の事例研究を方法・理念の両面で検討し、都市文化、農山村文化、双方の社会と自然の関係分析の到達点を明らかにする。
- ③ 理念・政策に関わる研究：
  - a) 社会-生態システム論のシステム病理論について、レジリエンス概念と転換概念の、それぞれの深化と関係性の検討、①と連動して社会科学的政策論的射程の拡張可能性の検討を行う。
  - b) 表現行為、社会運動、政策などの実践に現れた理念を抽出し、②や③a) と連動して研究が前提する規範・社会観等を批判的に検討する。

#### 【今年度の活動状況】（研究会メンバーは敬称略）

今年度の研究活動においては、初年度であるので、各自の研究紹介を中心に行い、共通認識を増やし研究課題を明確化することを意識した。毎回、社会、文化、自然とのかかわり、複雑系、レジリエンスにかかわる理解を深めるべく、活発な討論を行っている。第4回には遠方のメンバーである中村仁（芝浦工業大学 災害リスク管理・ジェイコブス研究）も参加し、災害論におけるレジリエンスについてコメントしている。下記に12月までの研究会の報告者とタイトルを示した。また、3月には連続企画（3月20日、21日、23日）として、批判的实在論、環境文学、社会生態システム論をテーマとするセッションを行った。

#### 第1回研究会（5月24日）

市原あかね（金沢大学 エコロジー経済学）「エコロジー経済学入門：熱力学からレジリエンス・アプローチへ」

#### 第2回研究会（7月20日）

Mammadova Aida（金沢大学 環境教育）「白山麓をフィールドとした白山BRにかかわる大学生への環境教育プログラム」

田邊浩（金沢大大学 社会学）「社会学におけるシステム理論の展開」

#### 第3回研究会（8月31日）

飯田義彦（国連サステイナビリティ高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット 景観生態学）「奈良県吉野山のヤマザクラ集団に関する生物季節学的研究」「白

山ユネスコエコパーク―人と自然がつぐむ地域の未来へ―」など活動紹介

川邊咲子（金沢大学人間社会環境研究科博士課程 文化資源学）”Why do we need everyday life heritage? : Toward systematic heritage and museum materials”

第4回研究会（9月29日）

盧珺（金沢大学人間社会環境研究科博士課程 コモンズ論）「山西省における『四社五村』水利自治組織の近代化―技術・経営・宗教に注目した変容過程分析―」

市原あかね（金沢大学 エコロジー経済学）「論点整理」

第5回研究会（12月19日）

小林重人（北陸先端科学技術大学院大学 複雑系科学・進化経済学）「連帯経済におけるコミュニティバンクと住民組織の役割―ブラジル・パルマス銀行を事例として」

第6回研究会：セッション1 批判的实在論（3月20日）

野村康氏（名古屋大学 環境政治学）「批判的实在論：方法論と環境政治学の周辺における意義」

田邊浩（金沢大学 社会学）「Margaret S. Archer の文化の形態生成論」

第7回研究会：セッション2 環境文学（3月21日）

結城正美（金沢大学 環境文学）「文学にみる感覚としてのリスク」

大澤善信氏（関東学院大学 社会学）ディスカッサント

第8回研究会：セッション3 社会生態システム論（3月23日）

梅津千恵子氏（京都大学 環境経済学）「半乾燥熱帯アフリカにおける食料安全保障とレジリアンス」

大野友彦（金沢大学 環境政治学）「ダム建設・撤去を通じた流域圏社会-生態システムの変容」